

小学校高学年



「川と国の営み」

指導計画書

【発展授業用】

【 本教材の特徴】

本学習教材は、岐阜県内の木曽三川周辺地域に関する水防災学習を想定して作成しています。自然災害のうち「風水害」を題材とし、岐阜県および自分たちの住む地域の水害リスク、木曽三川とその氾濫域における国による水害に備えるための取組、水害が発生しそうな場合に個人がとるべき行動、について学習できる内容となっています。

また、本教材の内容は、社会科や理科、総合学習といった学校における様々な教科授業・課外活動等で活用出来るものとしていますが、主に新学習指導要領の第5学年社会科より、

「(5) 我が国の国土の自然環境と国民生活との関連について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 自然災害は国土の自然条件などに関連して発生していることや、自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解すること。」に即しています。

【 教材の構成・見方】

本教材の構成と、各資料の扱い方・記載内容は以下の通りです。

■指導計画書

本資料です。

■発問計画

教員が、授業の構成・発問計画を作成するための資料（作成例）です。

■提示資料

授業で、スライドや黒板で示すための資料です。黒板に貼りだす場合は、A2～A1 サイズでの印刷を推奨しています。

■ワークシート

授業中、または、授業のまとめとして、児童が個々人で作業・書き込みを行うための資料です。A4 サイズでの印刷を推奨しています。

【単元の構成（例）】

単元の入り口の意識

岐阜県では、時代や地域に関係なく多くの自然災害が起きており、特に昭和 51 年の『9.12 豪雨災害』では人々は大変な思いをした。浸水被害が発生する回数が昔よりも減ったのは、市や県や国が施設の整備をしたり（公助）、水防団の方が陸閘を閉めるなど（共助）、わたしたちの命や生活を守るための様々な取り組みをしてくれているからだとわかった。

では、昔の人々や川を管理する「国」は、長良川の姿をどのように変え、今はどのような取り組みをしているのだろう。また、水害が起きたとき、私たちがすべきことはなんだろう。

自然災害から、わたしたちの命や生活を
守るため、どんなことができるのだろう。

第1時. 木曽三川の治水の歴史

水害の回数を減らすため、川の変え、川を管理するために、どのような事業が行われてきたのだろう。

○宝暦治水、明治改修を経ても、長良川上流部では、川北と川南地域の利害の対立で、大正時代まで工事が進められなかった。

○川の改修は、一方が良くなると他の地域が悪化することがある。できるだけそのような状況にならないよう、国は「地域をまたいだ調整」や「全体が改善するような改修計画」を立てている。

第2時. 長良川を管理する国の取り組み

現在、長良川を管理する国は、水害に備えて、普段はどのような取り組みをしているのだろう。

○河川事務所は、川の整備だけでなく、点検したり直したりして、町を水害から守っている。

○施設整備等によって、できるだけ浸水被害を減らす努力をしているが、完全に水害が起きないようにすることはできない。自分の安全は自分で守ることが大事。

第3,4時. 水害時、どこに、どのように避難するか考えよう（DIG）

水害時に安全を確保できる場所、安全なルート、危険な場所はどこだろう。

○とどまっていたはいけない場所がある。避難する場合も危険があるので、事前に危険を想像してルートを考えておくことが大事。

第5時. いつ・何をきっかけに行動をとるか考えよう（マイ・タイムライン）

水害が起きたとき、国・県・市からの『どんな情報』をきっかけに、私たちは『どんな行動をとるべき』だろう。

○DIG で考えたこの地域の課題（どの地域も浸水深が深く、避難所が少ないため、人が殺到する可能性がある等）を踏まえて、早めの避難をするために、どんな情報をきっかけとして、行動をとるか考える。

単元の出口の意識

先人や国による長良川の整備等によって、昔ほどは多くの水害が起こらなくなったけれど、自分の安全は自分で守ることが、地域の人々が水害に備えて取り組んでいる活動に協力するということに繋がる。そのためには、情報を調べたり、どんな危険があるかを想像したり、どのように行動するかを事前に決めておくことが大切だ。